

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム シリウス姫神

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100154		
法人名	株式会社 シリウスケアサービス		
事業所名	グループホーム シリウス姫神		
所在地	〒028-4132 岩手県盛岡市渋民駅105		
自己評価作成日	令和2年10月15日	評価結果市町村受理日	令和2年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所時には、多様な症状で入られる方が多いので、認知症になっても笑顔でそっと見守れるような支援をするところの説明をしております。また症状が悪化した時には、ここの設備では十分な対応ができないことも説明し、その方に適した介護、看護が受けられるよう話をさせていただいています。運営推進会議をととして情報を発信することでスムーズな運営につながるよう努めています。職員は、幅広い年代層の方々からなり、日々利用者様方が快適な生活ができるよう支援してくれています。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旧国道から少し入った岩手山と姫神山を眺められる新興住宅地に位置し、近くには市役所支所・消防署・医療機関・小学校・文化会館・啄木記念館・大型ショッピングセンターがある。職員は「笑顔でそっと見守る穏やかな日々を目指す」ことに徹しており、管理者を中心に一丸となって利用者本位のケアを行っている。これまで、自治会、婦人会、保育園等の地域の社会資源との交流が活発になされてきたが、コロナ禍のため外出、ミニドライブなど従来実施していたことが制限されている中で、天気の良い日には、ベランダに椅子を出しそこで歌を歌ったり、時には小学校帰りの子供たちや近隣の住民から声かけて貰う等、地域に馴染んだ生活ができている。運営推進会議は書面開催として資料をお送りし、委員からは貴重な声が寄せられ、それらの意見を利用者の支援に生かすように取り組んでいる。また、職員の意見・提案を前向きに受け止め、業務改善に結びつけている事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年11月13日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス姫神

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目的や運営方針を職員全員が目につく所に掲示し実践できるように日々努めています。	グループホームでの生活が、家庭での生活と同じようにゆったりと過ごすことができるよう、利用者の安心安全を念頭に運営方針を定め、利用者への生活支援に当たっている。なお、運営方針は、職員の目につくところに掲示するとともに、年度当初に職員間で協議確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園児、児童館、婦人部の踊り等良いつながりができています。今年はコロナ過のため交流はできていませんが保育園から敬老のお祝いのお花と園児の作品を頂きました。	コロナ禍にあり、従来実施できていた保育園児等との交流も出来ない状況にあるが、それでも保育園からお花をいただいている。自治会に未加入だが広報を頂き、利用者の皆さんにも見てもらい、地域の状況を少しでも見聞きできるよう配慮している。運営推進会議のメンバーや、地区住民からも地域の情報を入手している。地区の掃除には事業所として参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の認知症ケアを、運営推進会議をとおして、地域の方々に理解して頂き地域の方の入所にもつながっています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に現状を伝えることで、ホームの現状を親身に考えていただいています。地域のさまざまな情報も交換できています。	コロナ禍のため書面配布の場合もあるものの、年6回は開催することとしている。委員からは、避難訓練のこと、ヒヤリハット報告のこと等、毎回意見をいただいている。また会議録を職員全員が確認し、情報共有に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の申請、更新時はもとより、地域の会議や勉強会では各種情報をいただき、サービスの充実につながっています。事業所の「情報」は運営推進会議録で市へ毎回報告しています。	地域包括支援センターとは、空室が生じた場合や職員欠員について情報交換を行い、認知症カフェの情報もいただいている。今年はコロナ禍で開催されていないが、地域ケア会議には毎回参加していた。市担当課とは要介護認定申請の際など、その都度情報交換を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルにて学習、理解し見守りや適切な介助で、身体拘束をしなくても良いような援助を職員同士が心がけています。	玄関の施錠は夜間のみとし、外出願望の強い方には職員が見守り、一緒に戸外に出ている。スピーチロックがあった場合には、スタッフ相互に注意し合いながら利用者の支援に当たっている。また、身体拘束に関するマニュアルは、職員がいつでも閲覧、確認できるよう事務室においてある。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム シリウス姫神

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法について、マニュアルにて学習、理解し虐待が起きないように職員会でも注意しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、資料を参考に勉強会をしましたが、定期的に職員会議のときにも勉強会を行いたいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約するには、利用事前調査を行い、家族や本人の意向を確認し、契約の時には重要事項説明書にて納得、安心できるまで分かりやすく説明します。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の思いは、表情で感じ取り、家族からは電話、面会時での確認、定期報告(毎月)を送らせていただいております。運営推進会議にて報告し、ご意見をいただきながら運営に役立てています。	利用者一人一人の様子をきめ細やかに記録し、毎月の請求書と共に家族に届けている。職員は利用者のいつもと違う表情を敏感に受け止め、思いを汲み取る様に努めている。また、食後の飲み物について、家族からの要望を基にこれまでの習慣を継続出来るよう個々の状況に合わせて対応する等、きめ細やかに配慮している。	家族の「(自宅にいた時の様に)ヨーグルトを食べさせて欲しい」の声を受け、他の利用者に配慮しつつ取り組んでおり、今後も、利用者や家族の立場に立って一人一人へのきめ細やかな支援の継続を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日々の変化を全体的に把握し、職員とコミュニケーションをとりながら意見をもらい、職員会議で検討し、実績報告にて本社に報告し、運営に役立てている。	日々の打ち合わせや毎月の職員会議などで管理者が適時個々に声をかけ、職員の意見・提案を把握するようにしている。休憩時間の取り方や業務内容の見直しについての意見があり、職員間で協議の結果、具体的な改善に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日々の生活状況を理解、把握し、各自の能力が発揮しやすいように環境整備に努め、代表者に報告しています。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス姫神

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	基本的なことはマニュアルで学びます。外部研修は順番に参加できるようにしていますが、最近は人員不足などから参加できていません。今後は参加できる機会を確保し職員が自ら学ぼうとすることを大切にしていきます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いわて地域密着型サービス協会に入会していますがなかなか定例会などに参加できていません。参加し情報交換などを行いたいと考えています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	緊急性の高い状態で入所される方が多いので、納得のいくまでお話を聞くことにしています。自分を納得させる言葉が見つかるまで、根気強く声掛けしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に、家族の思いを受け入れて事業所で行えることを説明し、ホームの運営方針を理解、納得していただくことで安心されています。事務も的確に行うことで、信頼関係が築けると思い努力しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所判定基準に基づき入所決定し、グループホームの特質を説明し、介護計画で調節しながら支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	見守り見守られながら共に広い範囲の会話を心がけて、できる生活の場面を大切にしながら一緒に行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	申請者の家族だけでなく、遠い家族、親戚などが、本人を主にして面会に来てくれる事例が多くなってきた、これからも来やすい環境づくりをしたいです。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス姫神

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友達、親戚、隣の方が来てくれた時は、ゆっくり過ごせる場を作り、デジカメで写真を撮ってあげたりしています。家族との外出、外泊も大切にしています。	コロナ禍で、家族や知人等の来所は限られるが、来所された際は必ず写真を撮り、利用者はその写真を手に取って楽しそうにしている。現状、家族等の面会はガラス越しで行い、筆談でやり取りされる方もある。通院の際には付き添いの家族と一緒に外出している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者同士も見守ってくれたり、話しかけに行ってくれたりすることもあります。「ごさ居れば帰るの忘れる」と言う方もいました。具合が悪くない限りホールで過ごされています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、お世話になったケアマネさんを通して、次につながっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用始めに確認しますが、状態の変化を見逃さずケース記録を参考にしながら、職員や家族と話し合いながら、その方らしい生活ができるように支援しています。	入居時に利用者や家族からの聴取やアセスメントにより、暮らし方の希望・意向の把握を行っている。通院同行に家族が来所する際、家族からの情報を得る様に努めている。何気ない表情や動作から思いを汲み取り、支援に生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時、ケアマネ、本人、家族、面会時など身内の方からお話しして頂ける分を確認しています。施設では施設なりに、自由な生活をしてほしいと話しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録を参考にしながら、日々の介護場面においても、日内変動に注意し、有する力を発見して、職員からの情報も加え現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース記録やモニタリングを参考にしながら家族、本人の思いを介護計画に入れて作成し、日々の変化は、評価表で確認し、3か月で介護計画の見直しをしながら現状に即した計画をしています。	日々のケース記録を基に、毎月の職員会議で利用者の状況確認を行い、更に医師からの情報、家族との連絡等を加味し、3か月ごとにモニタリングを行っている。家族には、プランを郵送している。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス姫神

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や連絡帳に個別の記録を行い、毎日出勤者は出勤してきたら、個々の状態をケース記録で確認し、介護計画や見直しにつなげています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時に必要なことで、私たちにできることを誠意をもって行っています。行政との手続きも施設で行えることは代理しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議から広がった、社会資源をかつようしながら、若い方(保育園)から(高齢の方)シルバー人材センターまで、はば広く交流ができてきました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に定期的に通院介助したり、家族が連れて行ってくれたり、急変時には家族と連絡しながら対応し、夜間や休日でも対応してくれるので、安心につながっています。	殆どの方が家族同行でかかりつけ医を受診している。ホームでの様子は家族を介しメモで医師に情報提供し、受診結果は連絡ノートに記録している。協力医には夜間も対応して頂いており、医療連携は密である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設には看護師は勤務していませんが、かかりつけの病院に電話相談などし、情報共有に努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	かかりつけ医への通院、緊急時に入院できる病院、その後の入所施設、地域包括支援センターの連携もできているので本人、家族への安心にもつながっています。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス姫神

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時は、その状態に合う対応をすることを入所時に説明しています。家族も納得されているので、状態にあった病院、施設の相談しながらスムーズに対応できるようになってきました。	重症化し事業所内で対応できない状態となった場合には、関係機関との連携により適切に対応することとしており、その旨、入居時に説明し、家族・本人に了解を得ている。入居後、要介護度が3となった段階で、利用者・家族と話し合い、病院・老健・特養などへ移っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に事故対応マニュアルを職員会議のときにかくにんし、スムーズに対応できるように努めています。以前消防署の指導のもと心肺蘇生法を学びましたが、再び学機会を設けたいと考えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、年2回昼夜の時間帯を想定し行っています。以前「竜巻」を想定した訓練を行いました。他のグループホームとも、災害時の協力体制を作り、非常食を常備しています。	年2回、消防署立ち合いで夜間想定を含め避難訓練を実施し、今年度の第1回は9月に行い、その際の課題を災害時に生かすことができるように職員間で情報共有している。ハザードマップ上、安全な地域に位置している。3日分の食糧・水を備蓄カセットコンロなどを備えている。	非常時には、近隣住民からの協力を得ることも必要であり、今後、運営推進会議や自治会等に働きかけながら、自主防災組織などの地域との連携協力体制を強化していくことを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は常に声掛けや対応に注意しながらさりげないケアを行うように心がけています。認知症になってもプライドは残っていることを全員が周知して仕事をしています。	運営方針の「安心と尊厳ある生活を、笑顔でつなぐ」を職員間で共有し、支え合いながら対応している。利用者の顔や目を見て話しかけ、身振りを交えたコミュニケーションを大切にしている。入浴や排泄で異性介助を嫌う方には、配慮した対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい環境を大切にし、その方の状態を全体的に把握し、信頼関係を大切にしながら、思い込みに注意して本人の求めているものを感じ取るよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースで生活できるように支援していますが、職員の都合を優先してしまうこともあるため、そうならないよう職員全員が注意し支援します。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム シリウス姫神

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる限り、なじみの美容院や床屋に行っています。行くことができない方々は訪問美容を利用しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今は、利用者様と一緒に食事の準備をすることはできていませんが、片付けはできる範囲で手伝っていただくこともあります。献立は利用者様の好きな物を入れたり誕生会や敬老会にはお寿司やちらし寿司を提供しています。	献立は職員が作成し、利用者の好みを聴き献立に取り入れ、買い物や調理は職員が交代で行っている。今年は畑にジャガイモを植え献立に取り入れた。利用者に皮むきや後片付けを手伝ってもらったこともある。毎月1回お寿司の日を設けたり、敬老行事の際には、外部からちらし寿司を取り寄せる等、食事を楽しむことができるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は10品目が摂れるチェックシートを使用しています。水分補給は1日5回行っていますが、個人の状態に合わせて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは日に3回、必ず職員の見守りで行いもれないように注意しています。口腔ケア用品も毎日消毒しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の状態に合わせてトイレ誘導、介助を行い、トイレ排泄ができるように、排泄記録も確認しながら支援しています。	排泄チェック表で個々のパターンを把握しており、全員がトイレを利用し自立している。布パンツ利用は1名で、他はリハビリパンツにパットを併用している。夜間居室でポータブルトイレを用いる方は3名で、蓋に鈴を付けて確認している。夜間誘導はいらないが、失敗した際には声掛けを工夫しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便がない時は下剤で調整し、便秘を予防しています。食事でも毎朝の牛乳、夕食には乳製品を摂り入れています。適度な運動も行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の希望が確認ができる方は、希望に添うよう行い(一番風呂に入りたい)身体状況に合わせて入浴方法も工夫している。できることは自分で行ってもらいが、全員が介助のもと、安全な入浴を行っています。	週2回、利用者の希望で午前又は午後13時にゆったりとした気持ちで入浴出来るよう努めている。冬季には保湿剤を使用している。入浴を洗る利用者には、対応する職員を変えたり、声かけの工夫をするなど、一人一人の要望に応じた支援を心掛けている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム シリウス姫神

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は状態に合わせて、自由に居室で休んでいます。夜間は自然な睡眠がとれる方が少なく日中の過ごし方や、生活リズムを整える等の支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	家族が受診介助を行っている方は、受診時に近況を家族に伝え、症状に合わせた薬が処方になっています。処方薬の情報は連絡ノートに書き職員全員が確認し誤薬を防ぐようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存機能を生かしながら、できることをやっています。月に一回誕生会やお楽しみ会を行ったり、天気の良い日は日光浴をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様の希望があれば外出、外泊をしていただいています。今年はコロナ過で面会制限を行っているため外出、外泊はできていません。少しでもストレスをためないように、紅葉を見にドライブに出かけたいと考えています。	近くに啄木記念館や公園等があり、いつもなら散歩で出掛けていたが、今年はコロナ禍で自粛している。天候の具合を見ながら、ベランダに椅子を置き畑の野菜や花を眺めながら外気浴をし、気分転換を図っている。病院受診後、同行した家族とミニドライブを楽しまれる方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様同士でのお金の貸し借りや利用者様自身が置き場を忘れてしまい「取られた」と勘違いされたことがあったため、トラブルを防ぐために、今は自己管理されている方はいません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持って入所された方もいますが、難聴のためかかってきたことすら聞こえず、内容もすぐに忘れてしまいがちですが、それはそれでよいかと思っています。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム シリウス姫神

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活空間は常に整理整頓し衛生的かつ安全に考慮しホール、キッチン、談話室を一体化にすることで、利用者様方をそっと見守れる空間になっています。談話室からは畑が見え、そこに咲く花々を見ることで季節を感じることができます。	玄関には、石川啄木の歌や季節の飾りつけがある。ホールの壁面にはスタッフが作った季節に応じた飾りつけや保育園児の作品が飾られ、和やかな雰囲気の中、利用者は、自分の好きな場所でテレビを見る等、ゆったりとした時間を過ごしている。対面式のキッチンからは、職員が調理をしながらホール全体を見渡すことができ、声かけをする等和やかな雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室に写真を掲示し天気が良い日は日向ぼっこをしながら利用者同士が写真の話をされていることもあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ってきて頂くよう説明し、持ち込みの制限はしていません。テレビを持っている方もいますし、過去には、位牌を持ってこられた方もいました。	床暖房で換気口があり、チェストが備えられベッドはリース品を利用している。手作り作品、花、カード、写真などが飾られ、居心地よく過ごせる工夫がされている。居室にテレビを置いている方が3名いる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体は、認知症の方が安全に過ごせるように工夫されています、個室は、入所者の状態に合わせてベッドやチェストの配置換えをしながら安全に生活できるように工夫しています。		